

シラヒゲウニ放流(6年)

令和5年7月3日(月) 名城ビーチ沖



シラヒゲウニ人工授精(5年)

令和5年10月31日(木) 県立沖縄水産高等学校



ウニの人工授精体験

★沖縄水産高校での体験を通して、分かったことが3つあります。1つ目は、ウニには、オスとメスの両方ともあることがわかりました。僕は今までウニには性別関係はないと思っていたけど、沖水での学習を通して精子を出すオスと卵を生むメスがあるとわかりました。精子と卵を受精させて、正常な形の卵を作ることができました。2つ目はウニにはおしりと口の両方があるということがわかりました。特に口の特徴については知らなかったです。ウニの口には歯が5個あるということがわかりました。3つ目は卵には細胞分裂というのがあることがわかりました。僕は卵に細胞分裂というものがあるとは知りませんでした。でも沖水で学んで卵にも細胞分裂があるということがわかりました。僕はシラヒゲウニの生産量を少しでも増やすためにごみ拾いなど、生き物により良い生活を作っていきたいです。沖水との授業を通してウニの特徴などを教えてもらって、僕もシラヒゲウニや海洋生物のために努力したり、ごみ拾いなどに参加して海の豊かさを守っていきたいです。

【1組 】

★沖縄水産高校の体験を通して、シラヒゲウニは口とおしりがあることや、ビンの上に置くとときには口を上にしておしりを下にすることがわかりました。また、口の近くに塩化カリウム(KCl)を注射器をつかって精子や卵を出しやすくしたら精子が卵が出てくるということがわかりました。それを混ぜてけんぴきょうでみたら丸っこい卵みたいなのがあって少し気持ち悪かったです。シラヒゲウニを触ってみるとトゲは意外と硬かったしトゲトゲしていたのでびっくりしました。精子が出ているときいっぱい出てきてびっくりしました。口は五枚の歯でできていてニョキニョキ出てきたり隠れたりしていて可愛かったです。

この勉強を通して、シラヒゲウニや他の魚、わかめや貝類のためにゴミを海に捨てないということを目指して活動するためにまずは、身の回りのことから始めたいです。だから、身の周りの掃除や分別をして行きたいです。

【2組 】

海洋サイエンス科 海洋生物類型

シラヒゲウニ種苗生産（人工授精）実習 実施要項（案）

目的： 著しい資源減少がみられる本県有用水産生物であるシラヒゲウニの完全養殖を目指した人工授精を体験することにより、本県の水産増養殖業の現状と基礎的な種苗生産に関する知識・技術を学び、水産業への興味・関心を高める。

対象： 本校海洋生物系列2年生20名（職員5名）

糸満市立高嶺小学校5年生（38）名（職員2～4名）

【（人工授精）実施目的等(高嶺小合同)】

沖縄島の漁業

1 沖縄島の漁業の特徴

沖縄県では、カツオ、マグロ、ソデイなどの沖合漁業と、サンゴ礁の特徴をいかした養殖が行われている。

魚種別生産量（令和2年）

沖縄で漁獲されるマグロの種類を調べてみよう！

魚種別生産量についてまとめてみよう！

順位	種類	生産量(トン)
1位		
2位		
3位		
4位	その他	346

2 シラヒゲウニについて

シラヒゲウニは沖縄県で漁獲されている唯一のウニであり、重要な水産資源として利用されてきた。しかし、資源状態の悪化により、産卵の1975年には2,200トンだった漁獲量が、2013年には2トンのみとなり、産卵もほとんど行われていない。このようにして、沖縄県産のシラヒゲウニの資源を回復させるには、産卵の回復と資源回復の取組を行う必要がある。産卵の回復と資源回復の取組を行うには、産卵の回復と資源回復の取組を行う必要がある。産卵の回復と資源回復の取組を行うには、産卵の回復と資源回復の取組を行う必要がある。

県内のシラヒゲウニ漁獲量の推移

シラヒゲウニが減少した理由は何だと考えますか？

【ワークシート】